

日本
共産党

八幡市議会 報告ニュース

2019年1月13日 No.663

日本共産党八幡市議会議員団（983）2005

くらしの相談 お気軽に

山本邦夫市議 982・8844

巖 博市議 982・9663

亀田優子市議 982・1277

中村正公市議 983・8312

市議団メール jcp-ywta@am.wakwak.com

高すぎる国民健康保険料 公費1兆円投入で引き下げを

日本共産党が
提案

高すぎる国保料が住民の暮らしを苦しめ、国民皆保険制度の根幹を揺るがしています。日本共産党は、公的医療保険としての国保制度を立て直すために、国民健康保険料を引き下げる提案をしています。

提案は、国・都道府県が公費1兆円を投入して、(1)高すぎる国保料を中小企業の労働者が加入する「協会けんぽ」並みに引き下げる、(2)国による保険料免除制度をつくる、(3)無慈悲な保険証取り上げや強権的な差し押さえをやめる、(4)安倍政権による「国保都道府県化」を利用した、さらなる保険料値上げを許さない——という内容です。

国保料押し上げる均等割、世帯割

国保料には、「均等割」「平等割（世帯割）」という保険料算定項目があり、これが国保料を押し上げる要因です。均等割は家族一人ひとりに、平等割は世帯ごとにかかります。八幡市の2018年度国保料の場合、所得200万円、夫婦・子ども合わせて4人家族で、均等割と平等割が合わせて15万1289円を占めています。（右表参照）

全国知事会も要望

全国知事会なども、政府に対し保険料を引

き下げるために公費を投入するよう要望しています。国保財政への公費負担は、国が75%、府が25%を負担しています。1兆円投入すれば、均等割、平等割を廃止して国保料を大幅に引き下げることができます。

日本共産党八幡市議団は、京都府にたいして、府下の国保への公費負担をおこない、国保料を軽減するよう求めています。

八幡市の国保料で算定すると…

所得200万円（夫婦+子ども2人の場合）

国保料37万380円（年間）

↓（-15万1289円）

軽減後は21万9091円

まるで古代の「人头税」？

“人間の頭数”に応じて課税する国保料の均等割は、まるで人头税のようです。人头税は、古代に作られた税制で、人類史上でもっとも原始的で過酷な税とされています。それが21世紀の公的医療制度に残っているのです。この時代錯誤の仕組みこそ、国保料を低所得者や家族が多い世帯に重い負担にしている最大の要因です。

日本共産党 演説会

2月10日(日)午後2時30分

文化センター 小ホール

お話しする人



田村智子 参院議員
党副委員長

倉林明子 参院議員（京都選挙区）

森下よしみ 府会議員

八幡市議団と予定候補